

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科 目 名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
スロー・リーダーシップ特論		Z 167	1 単位	4 学期	ハイフレックス
Applied Slow Leadership					
科 目 分 野		課 程 領 域			
リーダーシップ		イノベーションマネジメント共通科目			
担 当 教 員 名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
ムラノ 野村 恭彦	-	メールアポイントにて随時			

関 連 し て い る 科 目 (履修推奨科目)		
イノベーションファシリテーション特論 1	イノベーションファシリテーション特論 2	企業戦略特論 1
ソーシャルファシリテーション特論	リーダーシップ要論	リーダーシップ特論

授 業 の 概 要 と 到 達 目 標

授業の主題と概要

リーダーシップについて十分に学んだ人に、これまでの概念と180度違うリーダーシップを学んでもらうのが、この授業の目的である。これまでのリーダーシップは、「ゴールを設定し」、「周囲を巻き込み」、「影響を与える」という3ステップで整理することができる。短期的、効率的に成果をあげることが求められることが多い現代社会において、この「短期的に目標を達成する」ことを目的としたリーダーシップは、素早くおなかを満たすためのファストフードのアナロジーで、「ファストリーダーシップ」と呼ぶことができる。短期的目標を達成するファストリーダーシップを誰もが発揮することで、それぞれの組織目標にお互いを巻き込もうとする状態を構造的に生み出している。スローリーダーシップとは、人とのつながりを大切に、健康的、地球環境も配慮するスローフードのように、自分自身にとって何が大切なのかを自覚的になって心の「旗を立て」、関わるすべての人の想いや課題を「聴ききり」、それぞれの立場を超えた共感によって「ともに変わる」という協働を生み出すアプローチだ。タスク志向のファストリーダーシップに対して、スローリーダーシップは関係性志向のリーダーシップである。サステナビリティとダイバーシティの時代に、組織横断、企業横断、セクター横断のプロジェクトでインパクトを生み出すためには、スローリーダーシップのしなやかさが必要である。本講座では、心の「旗を立てる」こと、「聴ききり」こと、「ともに変わる」ことを可能にするための思考と技術を演習とグループワークによって獲得する。

到達（修得）目標

- 1) スローリーダーシップの前提である、自分自身のほんとうに大切なことに気づき、心の旗を立てること。
- 2) スローリーダーシップのコア技術である、傾聴と共感の技術と在り方を体得すること。
- 3) スローリーダーシップで結果を出すための知識である、「ともに変わる」という組織変容を生み出すためのステップを理解すること。

受講対象者

- ・サステナビリティとダイバーシティの時代のリーダーシップについて学びたいと考えている人
- ・組織横断、企業横断、セクター横断のプロジェクトのリーダーシップを取る必要のある人

履 修 上 の 注 意 事 項 や ア ド バ イ ス

- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コ ン ピ テ ン シ 修 得 目 標

知識領域（Y 軸）	ヒューマンパワー（Z 軸）	思考プロセス（X 軸）
Y1: 基盤法令・テクノロジー	Z1: 問題発見力	○ X1: 企画
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	Z2: 独創力	○ X2: 構想
Y3: グローバル法令・実務	Z3: 問題解決力	X3: 調査・分析
Y4: マネジメント	○ Z4: プレゼンテーション力	X4: 設計・開発
Y5: 戦略立案	○ Z5: 変革推進力	X5: 変革
Y6: 標準化	Z6: コミュニケーション力	○ X6: 導入・運用
	Z7: リーダーシップ力	○ X7: 評価・検証
	Z8: ネゴシエーション力	○ X8: リーガルマインド
	Z9: オーナーシップ力	X9: ライフサイクル

プ ラ ク テ ィ カ ム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 「旗を立てる」ワークショップ	グループ対話	
2 「聴ききり」ワークショップ	グループ対話	
3 「ともに変わる」ワークショップ	グループワーク	
4 スローリーダーシップ宣言	プレゼンテーション	

評 価 の 方 法		
(総合評価項目と割合)		評 価 の 要 点
出席	10%	毎回、事務室より出席簿を準備する。
プラクティカムシート	40%	
学習プロセス（クラスでの貢献度）	50%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備 考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	※資料を適宜、配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)		
参 考 URL		

コマ	学 習 内 容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	・イントロダクション:リーダーシップ理論の変遷、スローリーダーシップとは ・ケースメソッドを通じた議論	スローリーダーシップのケースを読んで、自分の考えをまとめる	野村	180分
	「旗を立てる」ワークショップ ・探求家セッション ・リーダーシップ挑戦テーマの設定			
	イベント 「旗を立てる」ワークショップ			
3.4	レクチャーと演習 ・傾聴と共感の技術の理解 ・お互いの感情と価値観を深く聴きとる	前回授業での気づきの提出	野村	180分
	「聴ききる」ワークショップ ・リーダーシップ課題を聴きあう共感セッション ・相互フィードバックセッション			
	イベント 「聴ききる」ワークショップ			
5.6	レクチャーと演習 ・ロジックモデル ・未来の置き石モデルの理解	前回授業での気づきの提出	野村	180分
	「ともに変わる」ワークショップ ・挑戦テーマのロジックモデル作成 ・ロジックモデルを実現するための「未来の置き石モデル」の作成			
	イベント 「ともに変わる」ワークショップ			
7.8	スローリーダーシップ宣言 ・どんな旗を立てるか？ ・誰の声をどうやって聴ききるか？ ・ともに変わることでどんなことが起こるだろうか？	プレゼンテーション準備	野村	180分
	スローリーダーシップの振り返り ・相互フィードバック			
	イベント 全員プレゼンテーション:「スローリーダーシップ宣言」			

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。